

「争い」

一宮市立丹陽中学校

二年

宮崎心羽

私は人の気持ちを察するのが得意な方だと思
う。この人は怒っているな。楽しそうだな。
悲しそうだ。表情や仕草で気持ちを汲み取
るのは幼い頃からの特技だった。物事に争い
ごとはつまみものだと思う。でも私はその幼い
頃からの特技で「争い」ごとをできる限り避け
て生きてきた。その場の雰囲気がつまみものな
く苦手なのだ。だからこよ、お国のお偉いさ
ん同士も「譲り合」って助け合えばいいのにと
思うけれど、国単位で考えるとそうもいかな
いらしい。そんな幼稚な考えを見直す時が来
るとは思ってもよらなかった。

「戦争を無くすためには」その手の話によ
くあるもので、私はその度に「そんなこと不
可能だ」とどこか楽観的に考えていた。こ
の世に生まれて十四年。私の生まれ育った時
代は「環境は」「戦い争う」こととは無縁に
等しくて「戦い争う」ことの恐ろしさを私

は知らない。一生、知ることは無い。これは
とても、幸せなことだと思ふ。

私は本が好きで、戦争を題材にした物語を
いくつか読んだことがある。それでも戦争に
ついての知識は乏しく浅い。なので、戦争に
ついて詳しく調べてみた。中でも一番驚いた
ことは、人間が戦争をしていなかった期間
は世界史全体でたった六年間しかないこと
だ。今現在でも紛争が続いている国が数多く
ある。この七十年間戦争をせず平和を維持し

てきた国は世界百九十六か国中たった八か国
しかない。第二次世界大戦での日本人死者は
三百十万人にものぼるという。初めて耳にす
るものはかりで、知ろうともしなかった自分
になんととも言えない怒気と憤りを覚えた。そ
んな世間知らずの私は、殺しが良しとされて
いる。いや、殺しこそが正義の戦場に放り出
された途端に命を落とすだろう。

ただ私は、戦争がなくなれば世界が平和に
なる。という考えに少しばかり違和感を覚え

た。戦争を肯定する気などさらさらない。戦争はあってはならないと思う。しかし戦争を知らない私が「戦争がない」平和^{イム}と言いつける自信はない。

私の着地点はここだ。争いはなくならない。物事に争いごととはつきものだ。今もどこかで誰かが争っている。それやれに考えがあり、その考えを曲げたくない事情があり信念がある。根本的な楽観的すぎる考えは変わっていないのだらうけど、武力ではなく、人間の持つ特権である対話というコミュニケーションで事情や信念を分かち合えば、戦わずして争えるのではないかと思う。八十二億分の一にすぎない私の考えは所詮微生物のようなものだけれど、八十二億人の中の誰かの心に届いていれば、それだけで充分満足だ。